



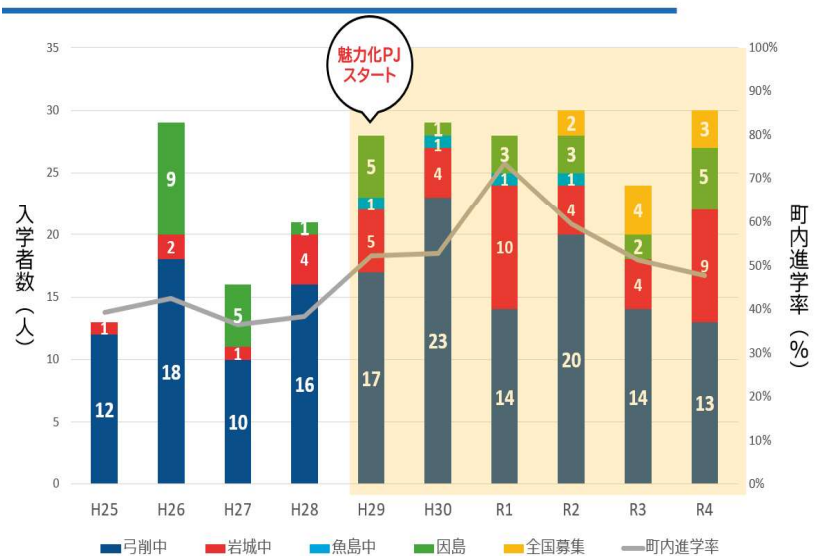
【令和4年度児童生徒数（令和4年6月3日現在）】

中学校 (入学)	中3 (R5)	中2 (R6)	中1 (R7)	小学校 (入学)	小6 (R8)	小5 (R9)	小4 (R10)	小3 (R11)	小2 (R12)	小1 (R13)
弓削中	19	18	17	弓削小	10	17	15	15	12	7
				生名小	0	3	9	8	6	5
岩城中	8	11	9	岩城小	8	19	14	16	10	17
魚島中	1	0	2	魚島小	0	0	1	0	0	0
合計	28	29	28		18	39	39	39	28	29
入学率 50%	14	15	14		9	20	20	20	14	15

弓削高校存続・魅力化に向けた取り組み

年月日	内容
平成18年度	愛媛県立弓削高等学校教育振興補助金 創設 ※入学料 / 通学費補助 / 自転車購入補助 / 研修補助 / 部活動補助 / 下宿補助
平成25年度	愛媛県立弓削高等学校振興対策協議会 設立 ※弓削高校事務局
平成29年度	弓削高等学校魅力化プロジェクトスタート 弓削高等学校公営塾「ゆめしま未来塾」 開塾
平成30年度	全国募集スタート
令和元年度	カリキュラム改革「しごとづくり学」スタート
令和2年度	地域みらい留学（全国募集）へ参画
令和4年度	給食提供スタート
令和6年度（予定）	教育寮運営スタート

弓削高校の入学状況推移



▲令和4年度から始まった給食

～高校魅力化の取り組み～

地域の夢をつなぐために

上島町にある唯一の高校、愛媛県立弓削高等学校。
今から約30年前の平成3年、弓削高に約400名もの生徒が
通っていた時代を知っている人は、どれくらいいるでしょうか？

あれから約20年後の平成25年、その年の春に弓削高校に入学した1年生は、わずか13名でした。「入学生数が20人未満の状況が3年続き、その後も増える見込みがない場合は、募集停止を行う。」これは、愛媛県立学校再編整備計画（※1）で示された、県立高校の統廃合の検討基準です。弓削高校の募集停止へのカウントダウンが、その時始まったのです。

存続の危機に直面した弓削高校を守るため、平成25年7月には愛媛県立弓削高等学校振興対策協議会が設置され、高校・地域・役場が一体となって弓削高校の存続に向け、取り組む体制が整えられました。

さらに平成29年からは弓削高等学校魅力化プロジェクトが始まり、公営塾「ゆめしま未来塾」が開講。これまで7名の講師が歴任し、弓削高生の学びと進路に伴走してきました。

平成30年からは生徒の多様性を担保する全国募集（※2）が開始され、これまで9名の生徒が、東は長野県から西は山口県まで、弓削高校を選んでこの上島町に移り住みました。

その他にも、3年間かけて探究学習のカリキュラム改革が行わ

れたり、今年度から給食提供が始まったり、そして2年後には学生寮のオープンが予定されていたりと、さまざまな取り組みが進んでいます。

その結果、一時は13名に落ち込んでいた入学人数は、プロジェクトスタート翌年からは、29名▼29名▼30名▼24名▼30名と、30名前後を堅調に維持しています。また、町内進学率は36%と低迷した時期から、50%前後に上昇しています。一方で、町内の生徒・児童数は年々減少しており、令和8年度入学生にあたる現在の小学校6年生は18名となります。これに近年の町内進学率（50%）を適用すると、弓削高校への進学者数は9名。弓削高校存続のためには、町外から最低でも12名の生徒を確保する必要があります。

今後とも弓削高校が、町内外の子どもたちや保護者の方々、そして地域の方にとってより魅力的な学校になれるよう、高校・地域・役場が一体となって取り組んでいきます。

※1 愛媛県教育委員会が県立高校の統廃合基準を設定しており、令和5・14年の10年間の方針は、今年度決定する。
※2 県外に住む中学生が、居住地から通学可能な高校ではなく、下宿・一人暮らし・一家で移住することを前提に、地元を離れ地方の高校に自らの希望で進学する制度。



弓削高等学校校長
向井 誠二 さん

Interview

地域と協働した学校づくりを目指して

弓削高校は、4月に30名の新入生を迎え、全校生徒79名で令和4年度がスタートしました。本校では、地域と協働した学校づくりを目指しており、地域の人口減少にともなうさまざまな課題について、地域の将来を担う自分たちで解決してみようと考えています。その解決のために、地域の人たちの力を借りながら、地域を元気にするための「仕事づくり」への挑戦をしています。そして、その挑戦を通して、豊かな発想力やチャレンジする姿勢に満ちた、バイタリティあふれる幅広い力を身に付けてほしいと考えています。その成果の一端として、7月には本校の起業部が、愛媛大学主催の「社会共創コンテスト」において「地域の人々と協働した空き家の再生に向けた古民家の活用」について応募し、全国299校の中からグランプリを受賞するなどの成果を上げることができました。

今後も、「地域の活性化」と「学校の魅力化」を両輪に学校づくりを進めていきたいと考えていますので、ご理解、ご協力をよろしくお願いします。



上島町役場
上島町長 上村 俊之

Interview

上島町を未来へつなぐ子どもたちの笑顔と夢を守るために

「町の子どもたちが通える普通科高等教育機関として弓削高校を守らなければならない。」地域の願いとともに、平成18年度から弓削高校存続に向け、上島町としても振興補助金の創設を皮切りに、愛媛県立弓削高等学校振興対策協議会を設立し、公営塾運営や全国募集、カリキュラム改革、学校給食の提供などさまざまな弓削高等学校魅力化プロジェクトに取り組んでいます。今年、魅力化プロジェクトの新しいコンセプトを「ワクワク・チャレンジ・創造のゆめしま海道で夢つなぐ人になる」に決定し、弓削高校は、通常の教科学習に加え、総合的な探究の時間を通じて「仕事を創る」という切り口から、地域の課題解決に向けて、地域の人たちと協力しながら地域の活性化にもチャレンジしてくれています。今後も上島町にとってなくてはならない弓削高校を「上島町立高等学校」と捉え、『子どもが「行きたい」保護者が「行かせたい」地域が「活かしたい」』と思える学校を目指して、弓削高校と弓削高校の存続を願う地域とともに、将来の子どもたちへつないでいけるよう取り組んで参りますので、町民の皆さまの応援をよろしくお願いいたします。